



ミッションフェロー

君塚 亮一*

今、時代は若きリーダーたちを求めている。世の中も、会社も、学会も。

この原稿を書いた5月14日夜、ワールドカップ女子アジア予選のオーストラリア戦がありました。試合前半から攻守ともにちぐはぐで、2点先取されました。ところが、欧州で活躍する大儀見選手がピッチに入ってから徐々に「タメ」とリズムができ、彼女自身のシュートも決まり、後半2点を取り返し、結局引き分けとなりました。おそらく見ていた誰しもが、彼女が入ったことで、「選手の意識も動きも変わった」と感じたことと思います。ものすごいリーダーシップだと鳥肌が立ちました。さらにその後の予選最終のヨルダン戦でも澤、大儀見が入った途端、選手達の動きが目に見えて変化しました。では、具体的には何が変わったのか？ほかの選手達ももちろん一流の技術や体力、メンタルを持ち合わせているのですが、一番の違いは、全体の情勢に対する判断力、そして、その判断力に基づいた行動力ではないかと感じました。

われわれの会社も同じ。いろいろな人間関係の中で、そして海外との関わりの中で、いかにすれば、周りとうまくやっていけるか、業務を達成できるか、言い換えると、いかにこれまでに蓄積してきた経験に基づいて判断し、そして行動をとるのか、それこそリーダーシップだと思います。これからの日本を築き、支えていくのはこれから成長していく若手リーダーであり、会社や職場の現役リーダーは若手にいかに経験のチャンスを与え、そして適切なアドバイスができるかが若手リーダーの育成にとっても重要なことだと思います。一方、若手の皆さんも自分自身の5年後、10年後の『夢や希望、あるべき姿』を考え、自分の職業生涯をデザインし、それを実現するためにはなすべきこと、なせることは何か、をぜひ考えていただきたいと思います。

「ミッションフェロー」制度がスタートしました。これは、JIEPが「今後の業界、学会の活性化や将来に向けた活動、そしてそれを強力に推進していく若きリーダーの育成と共に彼らを中心とする若い力を発揮する機会と場を設ける」ことを目指したもので、これからの活動、活躍に大いに期待します。弊社からもやる気だけはある若輩者を推薦させていただきました。さらに多くの志を持った若い方々の参加、産・官・学からの推薦・自薦をお願いしたいと思います。

また彼らをご指導いただくエグゼクティブフェロー、リーダーの皆様のご助力、ご尽力をお願いするとともに、われわれ企業もその活動を応援して参りたいと考えています。

とりとめのない内容になりましたが、最も大切なことは、まず自らが一步踏み出す「勇気」を持ち、何か行動に移すことだと私は思います。